

# 風土記の丘の花だより<sup>120</sup>

今、そしてこれから見られる植物(2022年1月29日)

寒い日が続きます。でも来週は立春、そろそろ春の気配がしてきそうです。紅梅に遅れること3週間、白梅のつぼみがやっとほころび始めました。これをご覧になるころには、チラホラと開花していることでしょう。今回も花が少ないので、まずはこんなものから紹介します。



ツワブキの綿毛です。秋の終わり頃、鮮やかな黄色い花を咲かせていましたが、今はこんな姿です。なんとなく寒々していますね。タンポポと同じキク科ですから、綿毛もよく似ていますね。でも、タンポポの綿毛には、種子と綿毛の間に長い柄がありますが、ツワブキにはそれがありません。それから、少し茶色っぽいですね。風で飛んでしまう前に見てください。



この綿毛はオケラです。秋に白い花がさいていましたが、今はこんな姿です。葉まで茶色になってしまっています。これもキク科です。この仲間は綿毛を作るものが多いですね。こんな綿毛のことをカッコつけていうと「冠毛・かんもう」と言います。この冠毛があることで、種子を遠くまで飛ばし、仲間を増やし、拡げることができるのです。工夫しているんですね。



旧柳川家住宅の蔵の裏の山裾でヤマアイの花が少しずつ咲いてきました。葉は冬でもきれいな緑でよく目立ちますが、花はとても小さく控えめです。ヤマアイは漢字で書けば「山藍」ですが、藍染めに使う藍とは全く関係のない植物です。ヤマアイはトウダイグサ科、藍はアイタデともよばれるようにダデ科です。でも昔は、ヤマアイででも布を染めたそうです。



ヤブツバキの赤い花が咲き始めています。まだまだ花数は少ないですがつややかな緑の葉と赤い花のコントラストはとてもすてきですね。これからたくさん咲いてくることでしょう。次回はウメを紹介できそうです。サンシュユやミツマタも楽しみです。早く暖かくなって欲しいですね。

松下